

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や朝学習などの時間に意欲的に読書に取り組んでいる。物語文の学習では、教材文の面白さを味わい、音読をしたり場面を読み取ったりするなど主体的に取り組む児童が多い。 ・自分の気持ちや考えを周りの人に伝えたいという思いは強くもっている。一方で、集中して大事なことを落とさずに聴くことが十分でない児童も見られる。 ・文章を読んで、大体の内容を理解する力は概ね身に付いている。教材文から自分の考えを書いたり、発表したりする力を高めていく必要がある。 ・文章を書くときに一文が長くなってしまふ。また、内容を膨らませて書くことを苦手とする児童も見られる。 ・漢字の学習では、得意な児童と苦手な児童の二極化も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書カードなどを用いて、今後も読書を推進して行く。音読の際は、物語のあらすじや登場人物の心情が伝わるように、動作化したり音読発表会を開いたりしながら話の内容を捉えられるようにする。 ・朝の会や帰りの会などのスピーチやS S Tなどの時間を通して、相手に分かりやすく伝え、「うめrais」を意識しながら話を聴く力を少しずつ身に付けさせていく。 ・教材文を読み、感じたことや疑問に思ったことをペアやグループで話し合う活動を積極的に取り入れる。多様な考えに触れる中で、自分の考えを整理し、さらに広げられるように学習を計画する。 ・ノートや原稿用紙で書くとき、一文の目安の長さを伝える。主語と述語がずれないように文章を書く。また、読み手に伝わるように、経験したことだけでなく、考えた理由や想像したことも入れて書く。 ・ノートや観察カードなど文章を書く際に習った漢字を日常的に用いて、基礎的な知識を定着させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○休み時間や朝学習で本をすすんで読もうとする児童が多かった。また、汐見表現の日に国語で学習した作者を紹介したことで、他の作品に触れてみようとする児童も見られた。 ○全校S S Tの活動を通して、どの活動でも「うめrais」を意識し、相手の話をしっかり聴く姿勢が少しずつ身に付いた。 ○教材文を丁寧に読み、感想や疑問を友達と意欲的に交流することができた。話し合いをする中で、登場人物の心情の変化のきっかけや変容を捉えることができた。 △主語と述語を入れて文章を書こうとしているが、一文が長くなってしまふ児童がいる。 △漢字の習熟の定着が十分でない児童もいる。ノートやワークシート等の文章を書く際に、既習の漢字を使って書く習慣を今後も継続して行っていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・足し算や引き算の繰り上がりや繰り下がりのある計算では、筆算の仕方をよく理解し、意欲的に取り組む児童が多い。 ・文章題では、問題の読みが浅かったり、単位の付け忘れなどケアレスミスが目立ったりする。 ・自分の考えをノートに書く習慣が付いてきた。しかし、自分の言葉で説明することが苦手な児童がいる。 ・身近なものの長さや水のかさなどの単位を適切に選択し測定するなど量感が身に付いていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もすすんで取り組めるよう、けやきタイムを生かして、計算の学習の定着を図る。 ・問題把握の際、分かっていることや聞かれていることに線を引く活動を取り入れる。また、「あわせて」などのキーワードに着目させたり、図から立式を考えたりしながら、問題場面をつかみやすくする。 ・言葉や図、式などを用いて、自分の考えを書き表す時間を保障する。ペアやグループなどで話し合い、説明する経験を積み重ねながら、安心感をもって全体の場で発表、説明できるようにする。 ・実測したり、自分の指幅など体を使った計測を用いたりする中で、量感を養う。またその際、長さやかさの見当をつけてから測定を行うようにする。時間など、生活の場面で活用していくことで、理解を定着させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットの活用により、一人一人に合わせた進度で計算の習熟を図ることができた。 ○かけ算カードの活用や家庭との協力で、かけ算九九を暗唱し、九九を使って問題を解く学習に意欲的に取り組むことができた。 ○ペア学習や小集団での活動の場を設けることで、自分の考えを表現することができる児童が増えた。 ○自分の考えを図や式に表したり、多様な考えを出し合ったりして、集団で検討したりすることができた。 △文章問題に対して読み込みが浅く、かけ算の式でのかけられる数とかける数の間違えなど、ミスすることがあった。問題場面をつかみやすくさせていく。

生活	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物に関心を持ち、すすんで関わろうとしている。ミニトマトの観察やとうもろこしの皮むきでは、生き物が生長していく姿を見て、不思議さや面白さなどを感じることができた。 ミニトマトを育てる活動を通して、興味をもって育てたり観察したりする児童が多い。一方で生き物に関心がなく、世話に最後まで粘り強く取り組みない児童もいる。 1年生を案内した学校探険や町探険などの人との交流を通し、自分の生活や成長に多くの人が携わっていることに気付くようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いや願いを受け止め、自ら探求したいと思える学習計画を立てる。導入を工夫し、写真やクイズを用いたり、実際に物や人と出会ったりする中から興味や関心を高めて活動に入れるようにすすめていく。 タブレットを活用し、生き物の生長がいつでも見えるように学習を進めていく。また、学校だけでなく、町たんけんなどの校外学習を通して、自然と関わる機会を設け、動植物に愛着をもてるようにする。 学校探検では、1年生に伝えるという相手意識をもたせ、学習活動に意欲的に取り組ませる。町たんけんでは、地域の自然や人とのかかわりを通して、自分の住むまちに愛着をもてるように学習を進める。 今後も、異学年交流や地域の方を招いた交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 動くおもちゃ作りを通して、試行錯誤を繰り返しながら、遊び方や遊びに使う物を工夫して作ることができた。また、自然の面白さや不思議さに気付き、思考力を高めた。 地域の方と交流をしたり、1年生におもちゃを紹介したりする学習計画を立てたことで、児童が興味をもって学習を最後まですすめることができた。 ICT機器を活用し、生き物の生長をまとめることができた。また、町たんけんや図書館見学等の校外学習を通して、自然や地域に愛着をさらにもつようになった。 △植物を育てる体験が少なかった。実際に野菜を育てる体験を増やすなど、自然との関わりをもつようにしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想とリズムや拍を感じながら、歌ったりリズムを打ったりすることができる。 2拍子と3拍子の違いに気付き、歌ったり演奏したりすることができる。曲の面白さや美しさなどの感じ取ったことを表現できるように指導を続ける必要がある。 音の高さを感じ取りながら歌う学習では、音を聴くことに集中する時間を設けると変容が見られる。聴くことが習慣付くように指導を続ける必要がある。 鍵盤ハーモニカの演奏は、指遣いやタンギングに気を付けて学習できている。習熟に応じた支援を続ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想とリズムや拍の関わり、面白さ、美しさを感じ取りやすいように、範唱を活用したり情景を提示したりする。 表現の工夫がしやすいように、声の出し方や奏法のポイントを明確にし、良いところを共有できるようにする。 音の高さを視覚的に捉えられる図を提示し、高さを感じ取る手立てとして続ける。聴き方の約束を継続させ、聴いた後に歌うことで感じ取ったことを表現できるようにする。 階名唱や指番号を確認しながら、個別指導とグループ学習を適宜取り入れて行い、習熟を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想とリズムや拍の関わり、面白さ、美しさをリズムで表したり言葉で表現したりして、様子を想像しながら演奏できるようになった。 グループ活動を通して、表現の工夫などにおいて、互いによいところを取り入れて活動できるようになってきた。 音の高さや強弱に興味を持ち、どのような旋律が流れているか注視するようになった。 タブレットによるリズム作りを通して、繰り返しのリズムに注目したり、「呼びかけとこたえ」がつながるように組み合わせを工夫したりすることが出来た。 △拍に合わせて演奏するという意識が薄い児童がいるので、拍を感じ取りながら歌ったり、演奏したりする活動を多く取り入れていく。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって活動できているが、完成を急ぐあまり、仕上げが雑になることがある。 はさみ、接着剤などの用具を使う経験が少ない。 身近な自然や彫刻や建造物等に触れ合う経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 作例や見本を分かりやすく提示し、丁寧に仕上げた作品の良さに気付かせる。 様々な用具を扱う授業を多く設定し、経験を積ませる。 身近な自然物や建造物や公園の彫刻等を観察したり、触ったりする活動を取り入れた題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作例や見本を示すことで、見通しをもって活動でき、イメージを広げることができた。 絵の具、はさみ、接着剤等の使い方に慣れてきた。 ○カッターの使い方を覚え、はさみとは違う、工作の仕方を楽しむことができた。 △工事で校庭が使えないこともあり、自然物と

			の関わりを生かした活動が少なくなりました。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてに向けて活動しようとする児童が多い。 ・ゲーム型の学習では、友達と協力して活動することよりも、自分が楽しむことを優先してしまう児童がいる。 ・体を支える力が弱かったり十分に自分の体を使いきれていなかったりする。 ・体を動かすことが好きな児童が多い。準備や片付けも皆で協力して素早く行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードや学習カードを活用し、自身で毎時間めあてが達成できたのか振り返りを行うことができるようにする。 ・場や規則の設定を工夫する。また、仲良く協力する場面を意図的に作るなど、どの児童にとっても「楽しい」と感じることができるような指導を行う。 ・鉄棒やマット運動などを通して、体を支える運動を取り入れたり、体の使い方を具体的に指導したりする。 ・ICTの録画機能を活用し、自分の動きを目で確認できるようにする。 ・教師の話や説明の時間を少なくし、運動量の確保ができるように指導内容を明確化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードを作成したことで、その日のめあてが明確になり、振り返りを行うことができるようになってきた。 ○2学期のゲーム型の学習では、シンプルなルールを提示し、児童自ら活動しながらルールを考え、付け加えていった。自分たちでゲームを作ったことで、どの児童も意欲的に取り組む様子がみられた。 ○授業の流れを固定化したことで、児童の運動量を確保することが出来るようになってきた。 △体の使い方には個人差が大きく、運動技能のレベルに応じた場の設定など、柔軟な指導を取り入れることが必要である。 △ICTを使用し、自分の体の使い方を確認することはあまりできなかった。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを考えることができるが、自分事として振り返ることが困難な児童がいる。 ・意欲的に取り組む児童が多いものの、学習内容を日常生活に生かそうとする児童が少ない。 ・多様な意見や考え方があることを理解している児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返って考えることができるように、児童の実態に応じて発問を工夫する。 ・授業の中で日常生活を振り返ったり、日常の中で道徳での学習内容を意識した声掛けを行ったりすることで、日常の生活に生かすことができるようにする。 ・授業の中で自分の考えを発表する機会を増やす。友達の多様な考えに触れる機会を増やすことで、多くの考え方や視点があることを理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活経験から考えたことを発表したり記入したりできるようになってきた。 ○友達と違った自分の考えや意見を伝えられる児童が増えた。それにより自分と違った意見を受け入れることができる児童も増えてきた。 △実生活と結び付けられるような発問を、より検討していく必要がある。